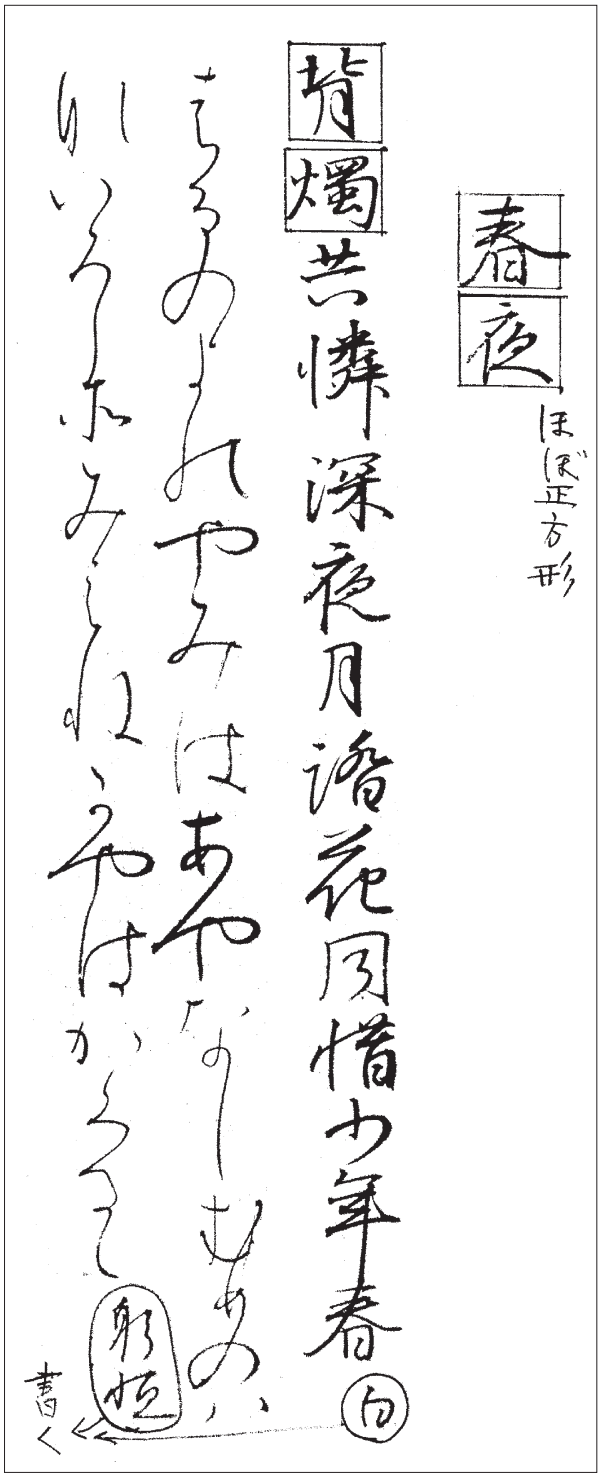
宮　絢子先生担当　　**臨　書　課　題**　　（十二月二十二日締切）

◆半紙縦四行に臨書して下さい。出品料440円



御物和漢朗詠集

第八回

1、語句＝春夜　背燭共憐深夜月踏花同惜少年春白
者（は）るのよ能（の）やみはあやなしむめの八（は）
那（な）いろこ所（そ）みえね可（か）やはかくるゝ躬恒

2、形式＝半紙をたてに使い四行に臨書する。詠者名の「白」「躬恒」も小さめに臨書する。一行目「春夜」。二行目は漢詩部「背～春白」。三・四行目は和歌部「者（は）る～かくるゝ躬恒」。落款は四行目のそばに、本文に添う大きさで「〇〇臨」と入れる。

3、概観＝「和漢朗詠集」は、漢詩五八八首（日本人の作三五四首・中国人の作二三四首）と、和歌二一六首の合計八〇四首で構成されています。和歌は全体の1/4で、残りの3/4は漢詩なのです。ですから和歌部（仮名）の臨書と同等に漢詩部（漢字）の臨書も行って始めて『和漢朗詠集の臨書』が完結することになります。

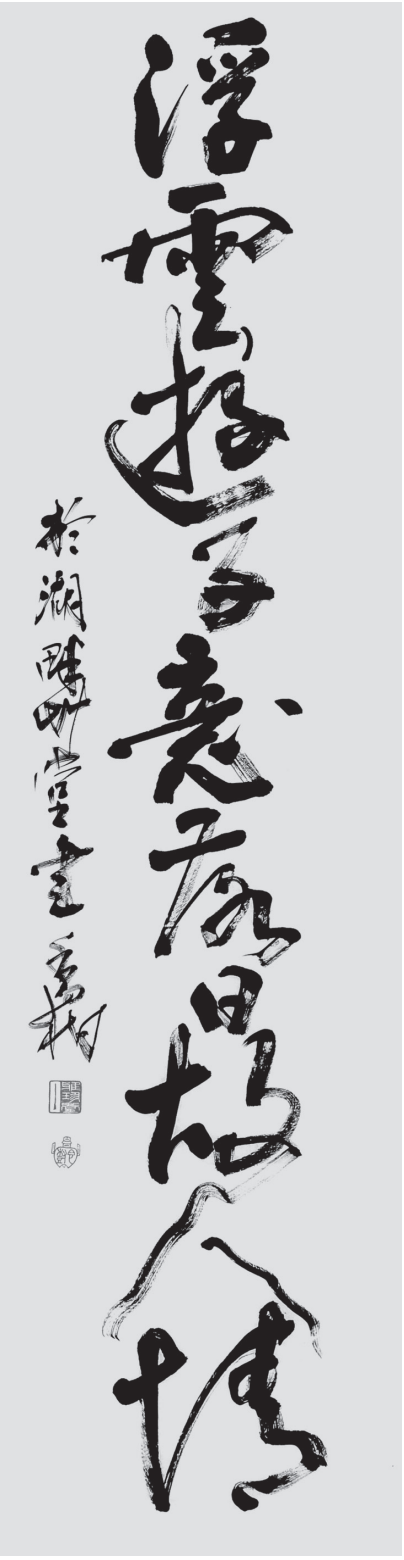
6月号の臨書で、変体仮名と称される漢字の草体を学びました。今回は、漢詩部や、和歌の詠者名の漢字も学びます。これらの漢字は、楷行書や草書で書かれていますが、総じて『和様（わよう）漢字』と呼ばれ、和歌の仮名にフィットする『優雅』と評される漢字です。今後仮名作品を制作する上で学んでおくべきものが、この『和様漢字』です。

4、学習のポイント……『和様漢字』にも挑戦する
①漢字はほぼ正方形に収まるような形にする。
②漢字は、優雅さを追求してゆっくりと筆圧をまねながら運筆する。
③詠者名「白・躬恒」も和様漢字を意識して。
④仮名は「生きた連綿線」の学習を生かして。

条幅部漢字課題参考　（十二月二十二日締切）

A

髙橋香樹会長書

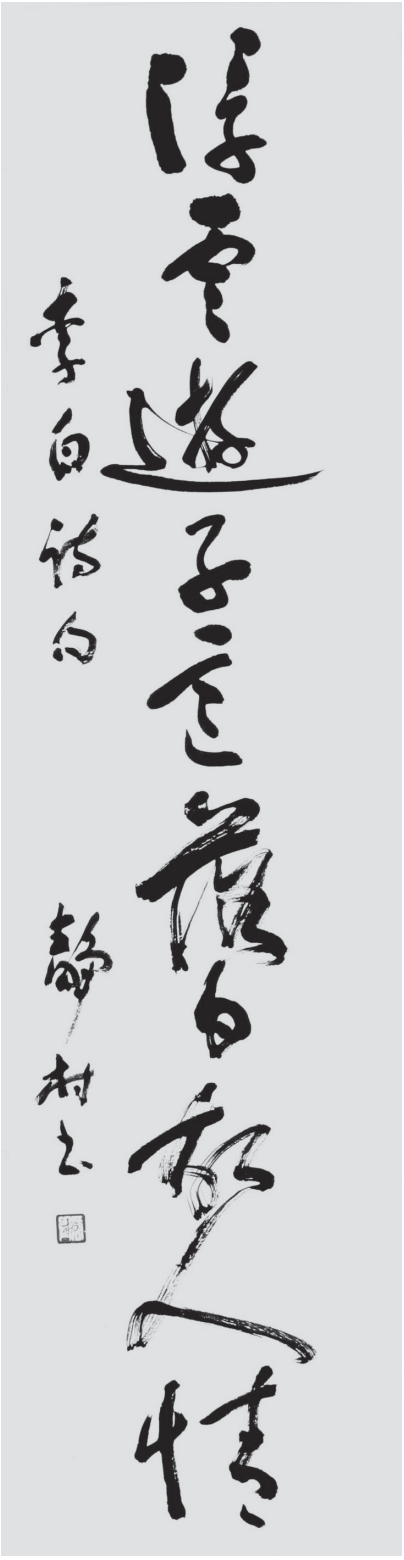


浮雲遊子意　落日故人情（李白）

浮雲遊子の意、落日故人の情。

B

鈴木静村先生書



五言二句十字の課題。二行も考えましたが、今回は、一行書と決めました。行草五字づつの配分。一行書では、文字の大小書き分けが大事で苦労するところです。文字を大きく書こうとすると皆横広がりになります。文字形は、□を少なく▽△◇△といった形の文字とすることにより、単調にならず横への展開ができます。

純羊毫一号筆。10文字ひと筆作。草体を主調。**浮雲**　滲みの味。**遊**　稍細めて字幅。**意**　5画をリズム的。**落**　冠の強い筆圧による渇筆表現。**日**　緊めて小さく。**故人**　連綿し字幅。**人**　線質に工夫。**情**　末画軽く。**落款**　漢詩の部分書きは「○○詩句　○○書」が一般的。

訳…空に浮かぶ雲は遊人のこころか、あかあかと落ちる日は友だちの気持ちか。友といよいよの別れ――。

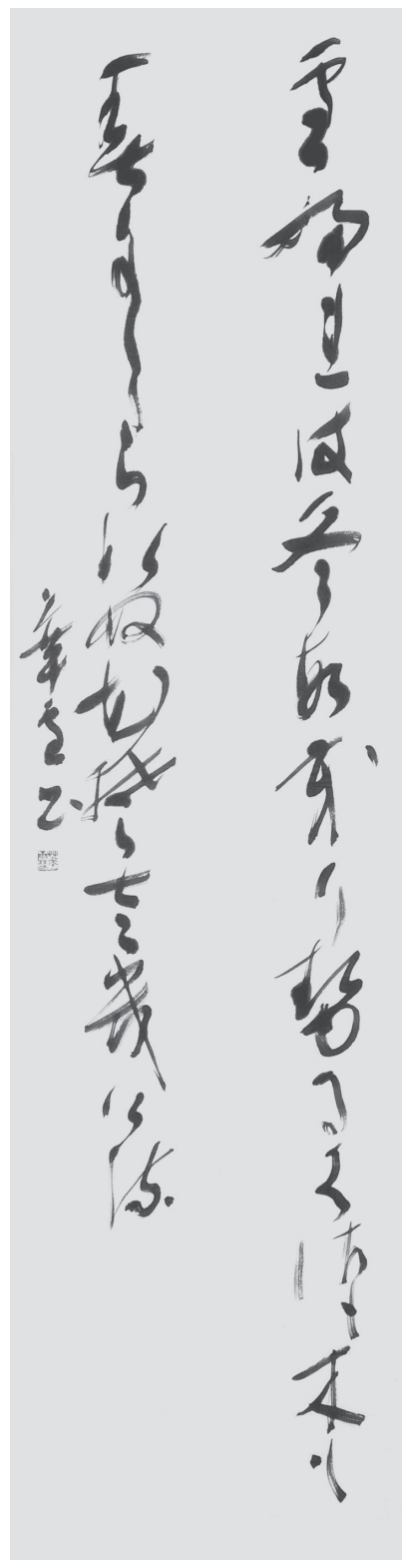
予告（一月二十二日締切）　**閒街遠水僧門緑　小巷通風薬店香（陳奉茲）**

◆**注　意**
- 条幅部の出品は一人一点（バーコード券の条漢を○で囲み（1）と記入する。）
- 二枚目からの出品（バーコード券の条漢を○で囲み（　）に何枚目か数字を記入する。出品料550円）

条幅部かな課題参考　（十二月二十二日締切）

A

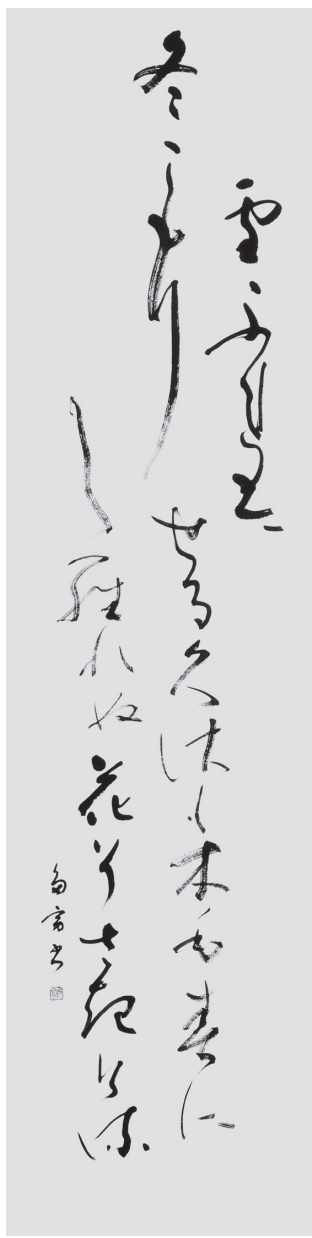
平岡華雪先生書



雪ふれば冬ごもりせる草も木も春に知られぬ花ぞさきける（古今和歌集　紀貫之）
雪婦連は冬故茂り勢る久佐も木も春尓しられぬ花楚左幾介流

B

森多富先生書



雪ふ連盤冬こもりせる久佐も木毛春にし羅れぬ花曽さ起介流

古今和歌集は、平安時代中期の延喜五年（九〇五）に、天皇に奏覧されたわが国初の勅撰和歌集。

紀貫之は、平安時代の代表的歌人で古今和歌集撰者の一人。古今和歌集序文の仮名序を執筆している。貫之自身の歌も約百首入集していて、歌人の中では最高数。

学び方

歌意…草木が冬ごもりしている折、雪が降って春には知ることのない花が咲いたようだ。

今回は、構成を三行書きにしてみました。紙は、手漉きの画仙紙を用いました。

仮名作品は、加工紙等がよく用いられますが、紙も色々使ってみて下さい。にじみの出る画仙紙は、書の表現のツールのひとつとして、大変魅力的です。墨の濃淡とにじみの融合を試みました。

はじめの「雪」は、墨量たっぷりですから速度を速めての運筆です。行間の変化・字体の変化等に気を配り、まとめてみました。

予告（一月二十二日締切）　**山ふかみ春ともしらぬ松の戸にたえ〳〵かゝる雪の玉水**（新古今和歌集　式子内親王）

◆**注意**
- 条幅部の出品は一人一点（バーコード券の条かを○で囲み（1）と記入する。）
- 二枚目からの出品（バーコード券の条かを○で囲み（　）に何枚目か数字を記入する。出品料550円）

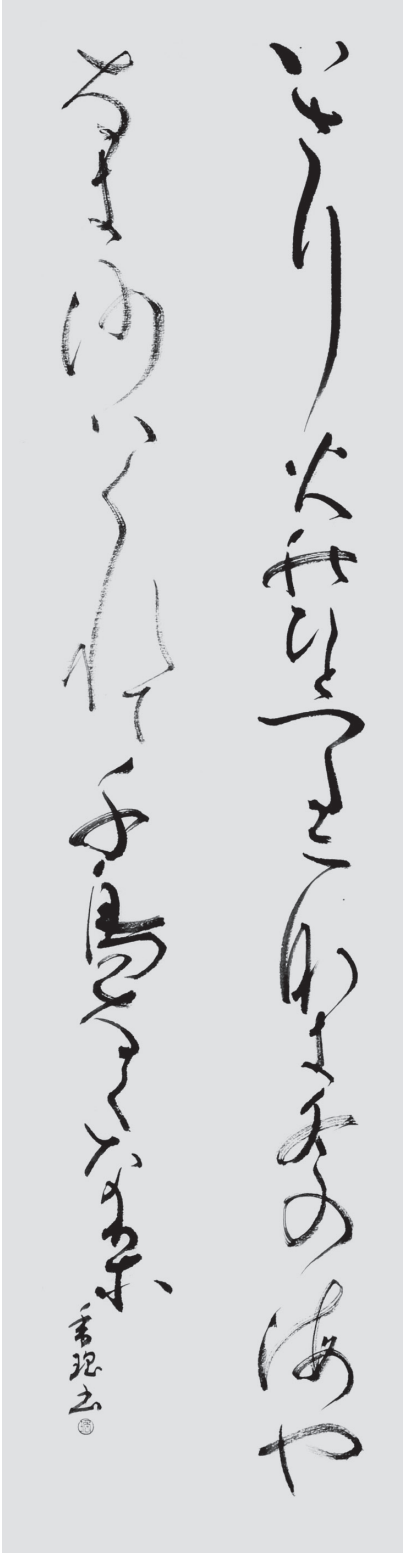
条　幅　部　随　意　参　考

水貝潮華先生書

熾炭一爐眞玉性　濃霜千澗老松心（韓偓）
熾炭一爐眞玉の性、濃霜千澗老松の心。

訳…炭をどんどんおこした炉はまことの玉のごときよい炉で、きびしい千渓の霜には老松の心が見えてゆかしい。

内藤香瑶先生書



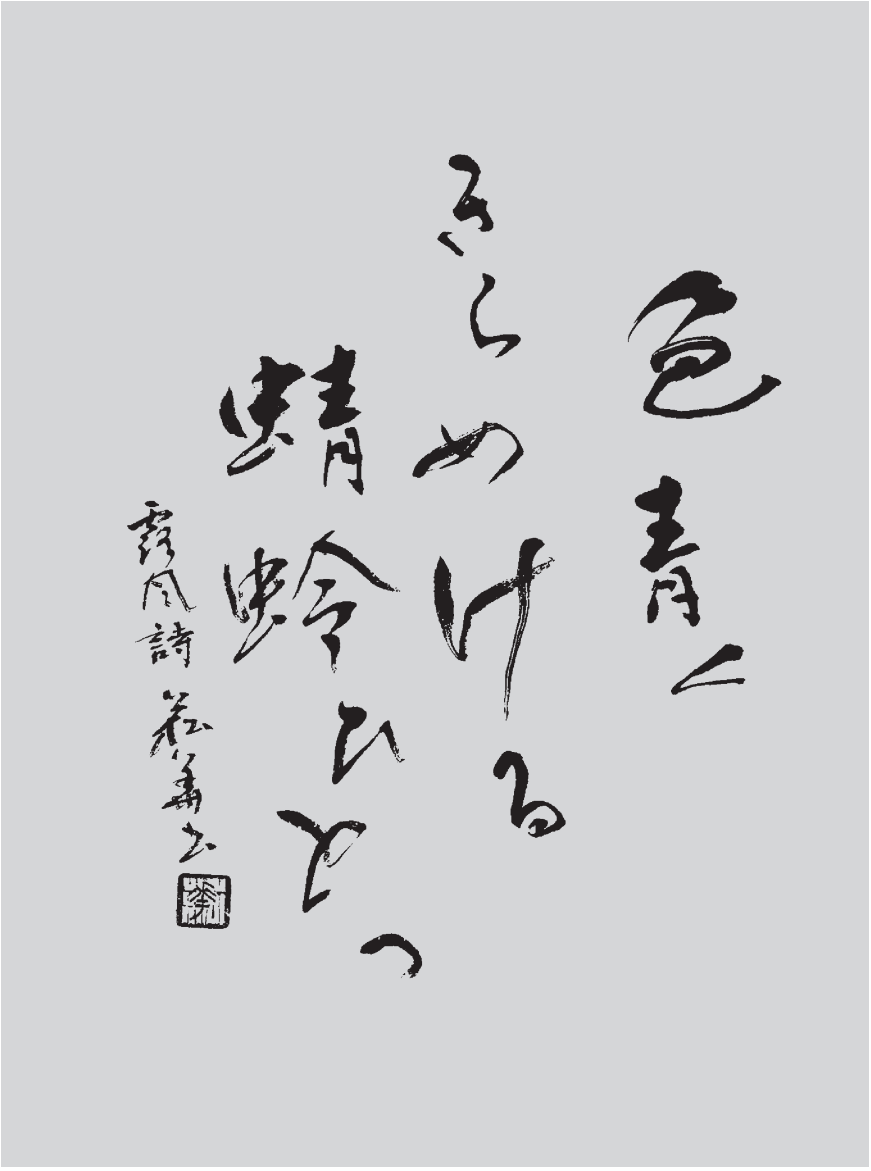
いさり火のひとつだになき冬の海やなぎさはくれて千鳥なくなり（若山牧水）
いさり火能ひとつ多二那支冬の海や奈支沙八久れて千鳥奈久な梨

◆注　意　・条幅部の出品は一人一点（バーコード券の条随を○で囲み（1）と記入する。）
・二枚目からの出品（バーコード券の条随を○で囲み（　）に何枚目か数字を記入する。出品料550円）

小暮菘華先生書

色青くきらめける
蜻蛉（せいれい）ひとつ
（三木露風）

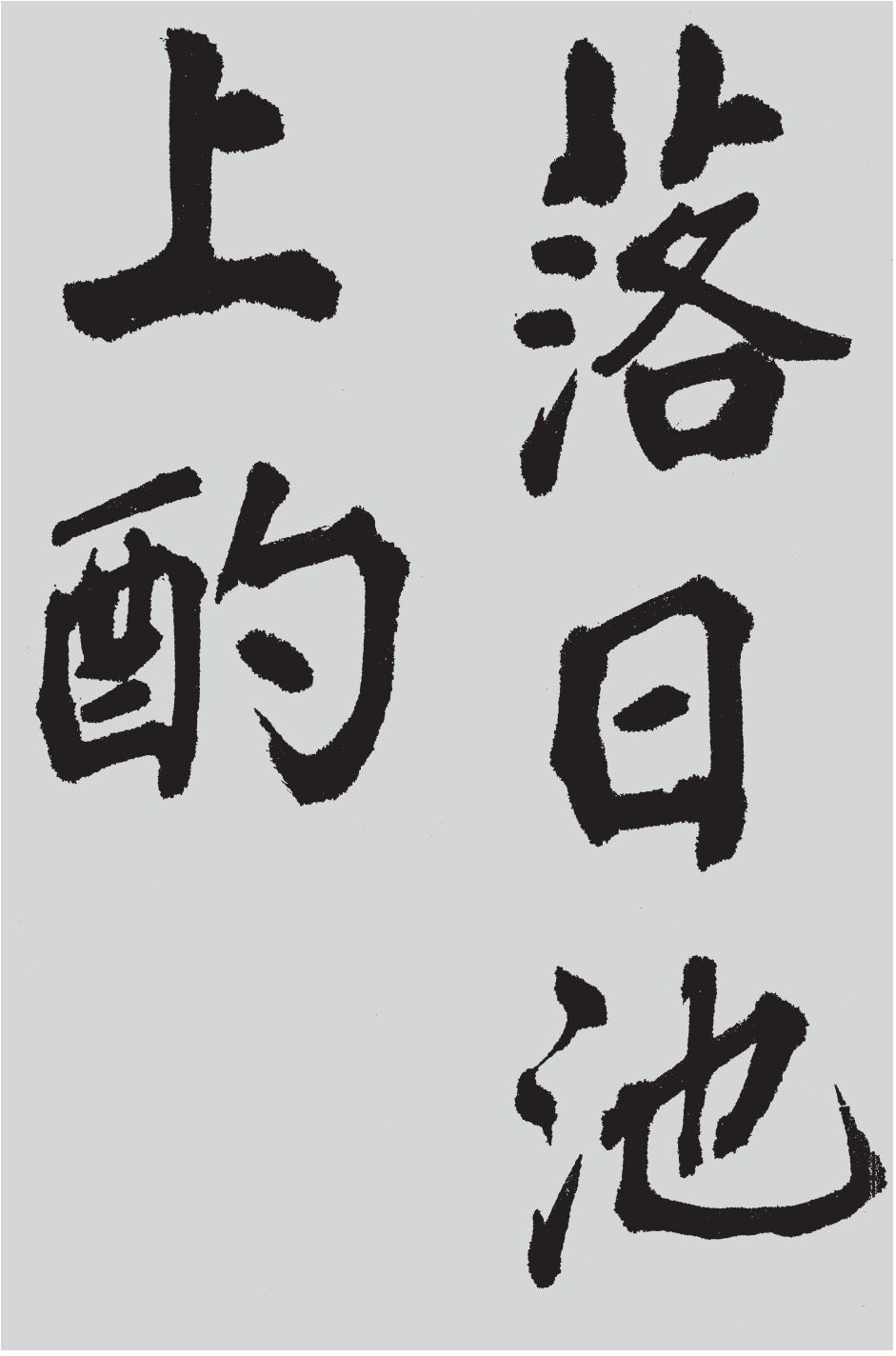
三木露風詩集『廃園』の中から、この一節を選び出しました。特に「ちらし」を用いず、字形も用筆も自然体です。平板にならないよう、漢字は墨量多め、行の流れにゆらぎを出しました。蜻蛉は「とんぼ」のこと。



三木露風（一八八九～一九六四）兵庫県たつの市生まれ。詩人、童謡作家、歌人。慶應大学卒。中学生の頃から作詩を始める。近代日本を代表する詩人として北原白秋と共に「白露時代」を築いた。「赤とんぼ」（山田耕作作曲）は日本の童謡の代表作の一つ。詩集『廃園』、『夏の日のたそがれ』等。

◆**注意**…はじめて出品される方は私製の紙（３×４㎝位）に次の４項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。出品料550円。
①バーコード券右空欄に漢かと記入　②支部名または都道府県名　③氏名または雅号　④新

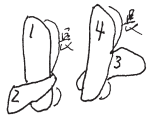
漢字部課題参考　（十二月二十二日締切）



平岡華雪先生書

落日池上に酌めば（清風松下に来る）
（孟浩然）
訳…夕日かげに池上で酒を酌めば（清らかな風が松の下から吹いてくる。）

〈画数の少ない文字〉
画数の少ない「日、上」の書き入れ方は案外むずかしい。手本文字のように、やや小さめに、太さはやや太めが適切とされています。よく練習して。



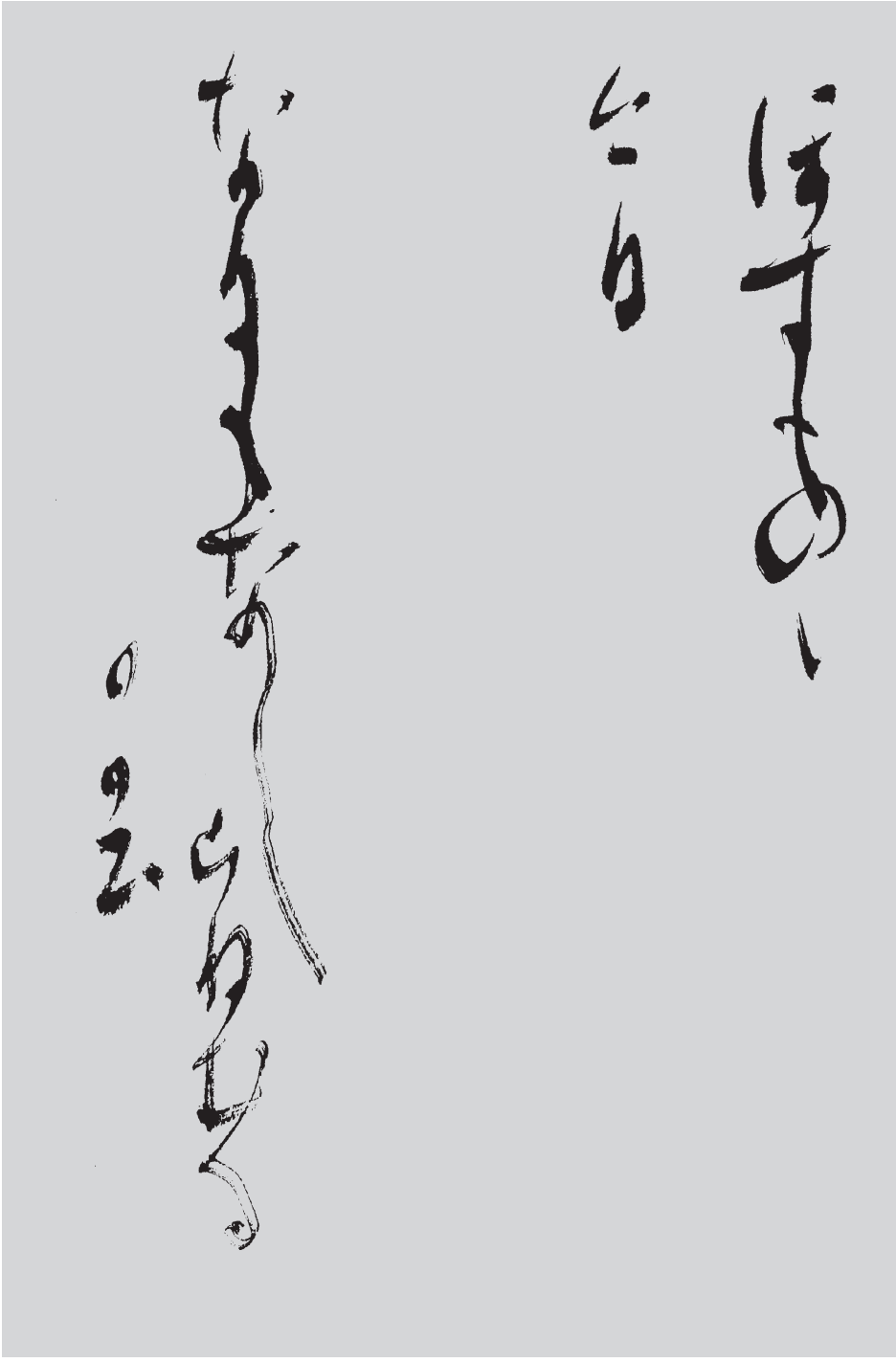
「落」艹冠の書き順

◆**注意**…はじめて出品される方は私製の紙（3×4㎝位）に次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。会員は無料、会員外出品料は460円。
①漢字部　②支部名または都道府県名　③氏名または雅号　④新

かな部課題参考　（十二月二十二日締切）

平岡華雪先生書

干すものゝ今日何もなし山眠る（潤）
ほすものゝ今日な尓もなし山ねむる



〈左右二群を対称として〉
左右二群構成。右群二行、左群の下五は中七に寄せ落款で締めた形。一般的には「山」で墨継ぎ。この課題作は先生時折試みの一筆書き、落款で墨継ぎの手法と想われる。左右二群のポイントとして、右群の急迫的な五字連綿。対して左群の重い筆圧的な連綿を対称として把えたい。

◆**注意**…はじめて出品される方は私製の紙（3×4㎝位）に次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。会員は無料、会員外出品料は460円。
①かな部　②支部名または都道府県名　③氏名または雅号　④新

楷、行、草、三　体　参　考

川上香蓉先生書

曲徑通幽處（常建）
曲径　幽処に通じ、

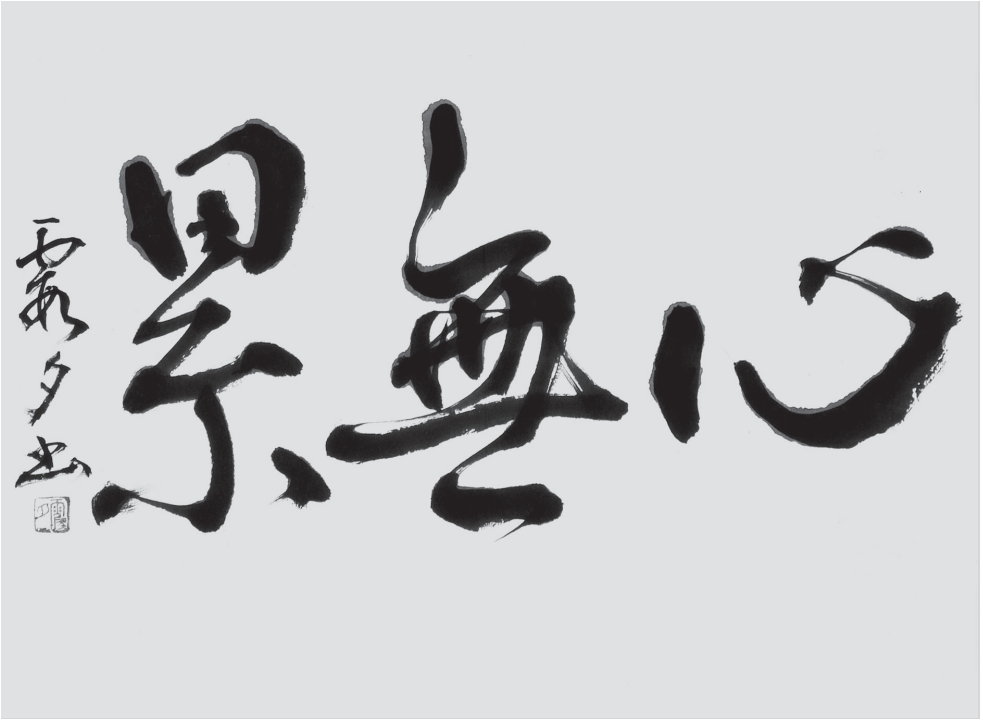
訳…曲がりくねった小道が幽境に通じ、

1．随意部参考として出品してください。　2．会員外の出品料は460円。

随　意　部　参　考

外川霞夕先生書

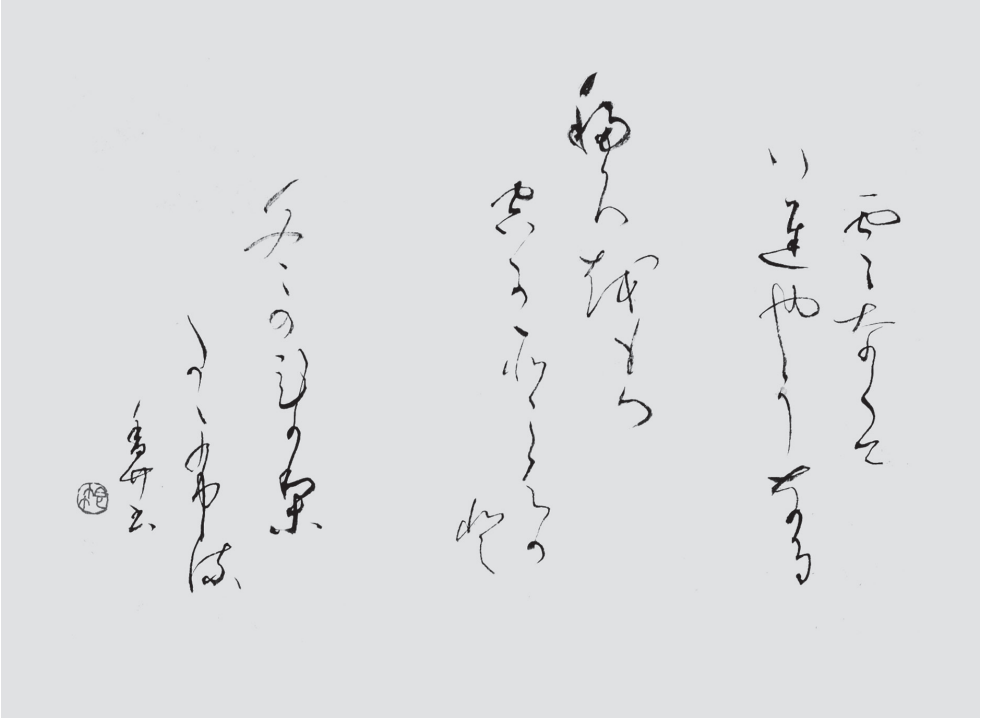
心無累（王半山）
心に累無し。



訳…心上に気にかかることがない。

青柳香竹先生書

雲なくて一様なる色を持つ空かそこはかと冬の光湛ふる（松井如流）
雲なくてい遅やう奈る移ろ越もつ空可所こ者可登冬の飛可梨多丶布流

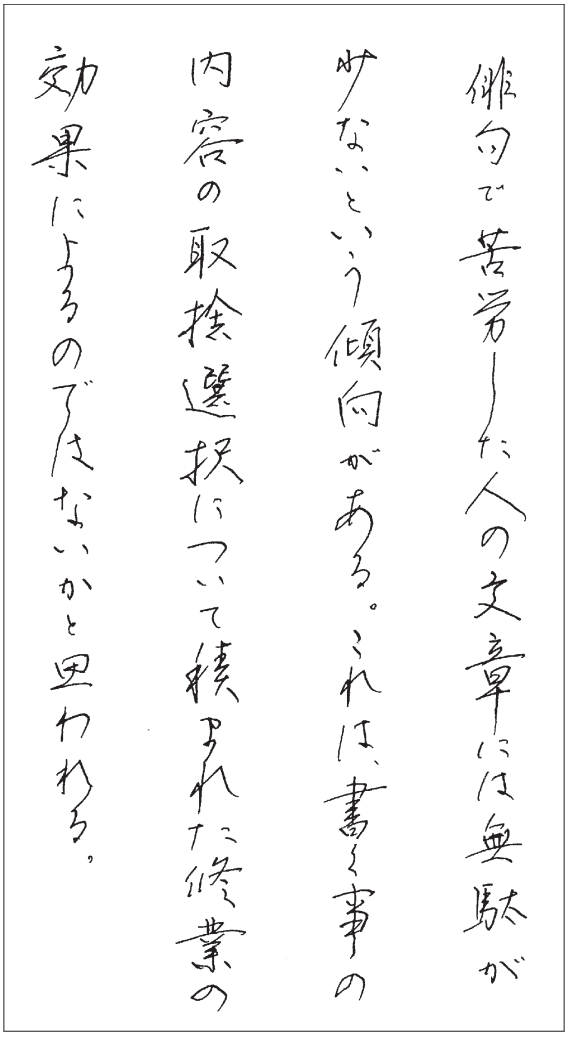


1．随意部参考として出品してください。　2．会員外の出品料は460円

硬筆部課題参考　（十二月二十二日締切）

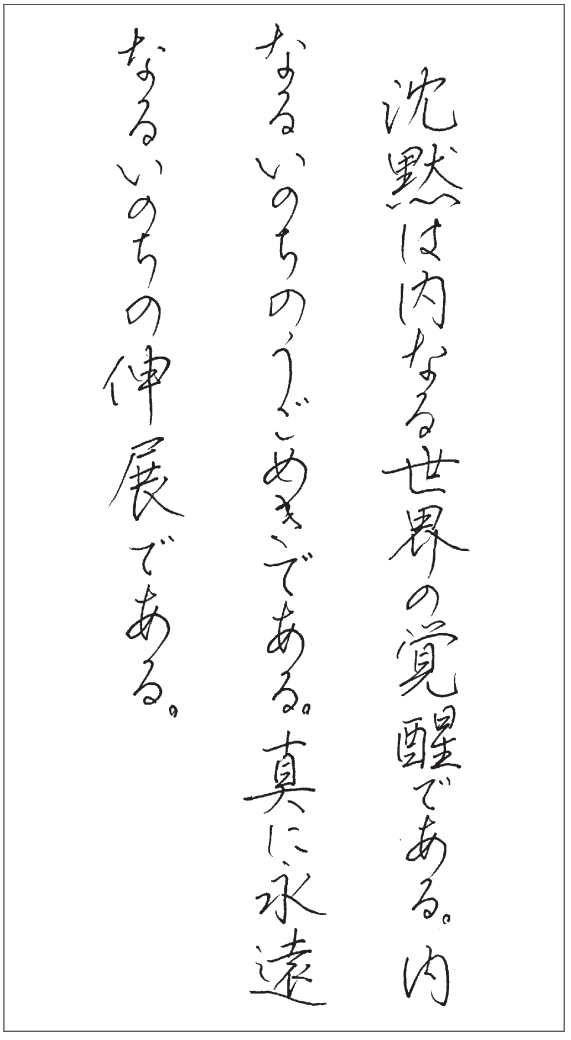
石原春香先生書

課題1（初段以上）



赤木典子先生書

課題2（初段格以下）



課題1（初段以上）

俳句で苦労した人の文章には無駄が少ないという傾向がある。これは、書く事の内容の取捨選択について積まれた修業の効果によるのではないかと思われる。

（『俳句の精神』寺田寅彦）

◆注意

(1) 自分の段級に合った課題を選択。

(2) ペンまたはボールペン（黒色）を使用のこと。青インクは不可。

(3) 段級欄は本人が記入（色は黒）

(4) はじめて出品される方は私製の紙（3×4㎝位に）次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。①硬筆部②支部名または都道府県名③氏名または雅号④新

(5) 会員は無料・会員外は四六〇円

課題2（初段格以下）

沈黙は内なる世界の覚醒である。内なるいのちのうごめきである。真に永遠なるいのちの伸展である。

（『沈黙の扉』吉田弦三郎）

◆十月号掲載昇試課題手本十一月二十二日締切の**課題2**の一行目「天高く気澄む」の「澄」の登の部分で、癶（はつがしら）の右側の点が一つ足りませんでした。お詫びして訂正いたします。この部分に関しては昇試審査には影響しません。